

子どもの道徳

No.116

子どもの道徳 No.116
編集：「子どもの道徳」編集委員会
発行者：長谷川知彦
発行所：株式会社 光文書院
〒102-0076 東京都千代田区五番町 14
電話：03-3262-3271
デザイン：KINOSHITA DESIGN
印刷：三松堂株式会社
2017年（平成 29年）4月20日発行

- 特別鼎談 「特別の教科 道徳」の教科書とは
天笠茂／加藤宣行／土田雄一
- 特集 道徳教科書づくりに込めた思い
加藤宣行／新宮弘識／土田雄一
- 連載 心に残る道徳授業 加藤宣行

◎目次

子どもの道徳 No.116

- 特別鼎談「特別の教科 道徳」の教科書とは
天笠茂／加藤宣行／土田雄一 1
- 特集 道徳教科書づくりに込めた思い
 - ・子どもの生き方を豊かにする道徳の教科書 加藤宣行 6
 - ・こくのある芳醇な道徳授業 新宮弘識 8
 - ・深く考える道徳授業で自分の生き方を考える 土田雄一 9
- 連載 心に残る道徳授業 加藤宣行先生による授業実践の紹介
 - ・2年 おりがみ名人（107号掲載記事の再録です） 10
 - ・4年 雨のバスていりゅう所で（110号掲載記事の再録です） 14

本文中の勤務校は、平成29年2月現在のものです。

実践から学ぶ 深く考える道徳授業

子どもが変わる！
授業が変わる！
「深く考える道徳」授業のススメ！

- 加藤宣行・竹井秀文 編著
- 定価 本体2,300円＋税
- B5判／160ページ
- ISBN：978-4-7706-1065-2

ご注文は弊社販売代理店、または書店まで。

おススメです！



■「子どもの道徳」へのご意見・ご感想をぜひお寄せください。

弊社 Web ページ「お問い合わせ」コーナー <http://www.kobun.co.jp/contact/>

特別鼎談

「特別の教科 道徳」の教科書とは



Shigeru Amagasa

天笠 茂

千葉大学教育学部特任教授、
中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会臨時委員



Nobuyuki Kato

加藤 宣行

筑波大学附属小学校、
『小学道徳 ゆたかな心』監修



Yuichi Tsuchida

土田 雄一

千葉大学教育学部
教育養成開発センター教授、
『小学道徳 ゆたかな心』編集委員

「特別の教科 道徳」の教科書の役割や期待について、お話をいただきました。

よい道徳の教科書とは

天笠 日本の公教育において教科書が果たしてきた実績は大きく、教科書の存在を抜きにして公教育を語ることはできません。教科書が日本の教育水準を支えている面は、間違いなくあります。

「特別の教科 道徳」が始まり、道徳の教科書が発行されます。「考え、議論する道徳」とは、どのようなものなのか伝わってくる。あるいは問題解決学習について、具体的な姿が表されている。そういう道徳の教科書が、期待されているのではないのでしょうか。

加藤 道徳の学習内容は、子どもにとって、すでに分かっていること、当たり前ことが多いです。教科書で、その分かっていることを再確認し、重荷のように子どもの肩に乗せていくだけの授業では、やる意味がありません。その本当のよさを

子どもたち自身と教師が考え、意味づけして、心が軽くなるような、こんな生き方がしたいと自然と思えるような、そういう教科書の使い方、授業のあり方が目指すところだと考えています。

天笠 教科書と教師の関係性や、教科書のよいあり方については、まだ模索すべき部分もあると思います。

加藤 よく、教科書「を」教えるのか、教科書「で」教えるのか、という議論があります。私は道徳の授業は書いてあること自体を学ぶのではなく、「書いてあることをきっかけに学ぶ」という捉え方をしています。教材をきっかけに、子どもたち自身が道徳の内容項目をどれだけ自覚し、意識し、内面を高めていけるかが大事です。なので、教科書「で」子どもたち自身の、よりよく生きるという道徳的な可能性を引き出していけるとよいのではないかと考えています。

土田 よくできた教科書は、教師の指導力の底上げにもつながると思います。ここ数年、経験年数の浅い教師が増えていますから、道徳の指導についても、教科書が教師の指導力のある程度まで引き上げることが求められているのだと思います。ただ、同時に、画一的な指導に陥らないよう、教師の裁量・力量・柔軟性というものが発揮できる教科書でなければと思います。教科書には、様々な教材が載っていて、活用方法もバラエティに富んでいる必要があります。子どもたちの実態に応じて教材をどう使うかを自分で考えられるのが力量のある教師です。ワンパターンになってしまったら、子どもたちもつまらないだろうし、教師もつまらないのではないのでしょうか。

加藤 道徳では、よい教科書というのは、よい教材が載っているものなのかな？と思います。では、よい教材とは何か。例えば、そのまま読むだけで、すてきだな、心温まるな、自分もそうになりたいなと思えるようなエピソードがあれば、それはよい教材なのでしょう。読むだけでねらいが満たされるのであれば、家でじっくり読んで感想を書かせたら十分で、授業で扱う必要はありません。教科書は、授業の中で扱うものです。その「授業で扱う」という持ち味を発揮させるためには、どういう教材・教科書がよいのか。とにかく考えさせればいいのか、答えをなくしてモラルジレンマ的な議論が生じるものなのか。編集委員の先生方と随分議論して、今回、教科書の教材を選定しました。

教材は、当然、子どもたちにここでこう考えさせたいという「ねらい」のもとに作成・選定します。「ねらい」があれば、自然と指導案も決まってくる。ただ、指導案にも様々な考え方があり、例えば「とにかく先生方が授業をしやすいように」という指導案と、それでは教材のよさが分からないから「展開の工夫や補助教材、発問の仕方をできるだけ多く」という指導案があると思います。

道徳授業の多様性

天笠 指導書については、教科書の作り手はどのようなお考えなのでしょう。

土田 教材という食材があり、それをどう料理するかというレシピが指導書だと思います。定番

教材や、文科省の出している読み物教材は、多くの人が知る食材ですが、どう料理するのかは、料理人の腕の見せ所。その料理人が上級者なのか初心者なのかによっても、最適レシピは変わってくるのかなと思います。

天笠 例えば、指導書が教師のかゆいところまで手が届くようになっていくがゆえに、逆に教師の力を削いでしまっている部分はないでしょうか。



加藤 道徳の教科書が発行されることで、先生方も、指導書通りにやろうというか、それを頼りにするルートができてしまうと思います。総合的な学習の時間が始まったときも「教科書にしてくれたら教えやすい」という声があがりましたよね。それでは本末転倒なのですが。そのあたりは、確かに危惧するところです。

土田 私も小学校の教員経験がありますが、例えば学期末に算数の教科書があと10ページ残っていると、「この10ページをどうにか終わらせよう」という感覚で授業を進めてしまうことが、現場にはあると思います。教科書は終わらせなくてはならないと。これを道徳に置き換えたときに、「道徳の教科書があと10ページ残っているから、どうにか終わらせる」という感覚で授業をしようと、本質を失い、形骸化してしまいます。読んで感想を書いて、主人公の気持ちを考えるというレベルに留まってしまうかもしれません。時間がなくても、この時間に子どもたちにどんなことを考えさせたいのかを、教師は明確にしていかなければいけません。

道徳は、同じ教材であっても、ねらいとする価値や内容項目へのアプローチがたくさんあり、工夫のしがいがあります。ただ、今はそこまで行きつけていない教師も多い。ですから、指導書が複数のアプローチを示せるとよいと思います。本当

は指導書・指導案はあくまでもたたき台ですから、「こう書いてあるけど、子どもたちの実態がこうだから、このねらいを達成するために別のやり方をしよう」と、なるべきです。

加藤 そうですね。道徳は、学習内容を子どもたちとどのように考えるか、というのが他教科と違うところ。そのためには、教師が学習内容をどう考えたらいいのかという捉え方をしっかりとめないといけません。だから、指導書の役割は大きいと思います。最初から「席を譲ることはよいことだから、席を譲りましょう」という結論ありきで授業してしまったら、ただ読んで、みんなもこうしましょう、いちばんよい方法はどれでしょう、感想を書きましょうで終わってしまう。それは道徳の学習ではないし、問題解決的な学習でもありません。

天笠 そうなると、教師の発想を刺激し、アイデアを引き出すような、触発型の指導書と教科書が必要ということですかね。教師や子ども、場合によっては保護者も含めて、読者が道徳の授業に向き合ってみたい、深めてみたいという思いに駆られるような紙面が構成されているかどうか。

加藤 それはすごく大事です。刺激的で触発されるところがあるからこそ、子どもたちが主体的な学び手になる。そのために、教師自身がそういう目で教材を読んだり、価値について考えなおしたり、子どもたちと一緒に学べたりするような、投げかけのある教科書や指導書が必要です。



土田 授業を行う前から「思いやりや親切は大事」と分かっている、授業を終えても、やっぱりそうだね、と留まるような教材や指導ではおもしろくないですね。

天笠 思いやりや親切を扱うにしても、「おっ、なるほど」というところがあるのでしょうか。

土田 いじめはいけないことだと誰もが知っていますし、いじめはいけませんという教材だけで、いじめが解決するわけではありません。学習の中でハッと気がつくことがあったり、いじめてしまうもとなる心が自分の中にもあるけれど、それをどう乗り越えていくのかを考えたりする教材や指導が必要です。

加藤 私は今年2年生を担当していますが、Yちゃんという子が「給食で並んでいたら、K君が割り込んできた」と言ったんです。K君は、Yちゃんが列に並んでいるのに気がつかず、悪気もなく入ってきた。Yちゃんは「K君に後ろに並ばせるのがいいのか、友達だし、大目に見て黙っているのがいいのか、どっちがK君のためなのかな。そんな細かいことを言ったら嫌われちゃうかもしれない。友達として、私はどうしたらよかったのかな」と悩んでいました。低学年でも普通の生活の中で「友達とは何か」のような、答えが1つに決まらない問いに直面し、考えています。友達だから言うべきことは言う、あえて言わない、許せる部分もある、そういうことを考えられるきっかけは貴重です。

こんな例を教科書に載せて導入にしたり、指導書に「これについて考えてみませんか」というコラムを載せたりしたいと思いました。そして、子どもたちが自分事として捉えられる紙面構成にできたら、と意識して、教科書を監修しました。「親切はよいこと」というのは最初から分かっていたとしても、「する親切も、しない親切もある」や「厳しくする方が、優しいときもある」というのに気がつく。教科書として行方からは、そういった学びや気づきがほしいし、それを保障できる教科書や指導書にしたいと考えました。

天笠 授業を通して、「多面的・多角的なものの方ができるようになる」ということかと思います。

「特別の教科 道徳」が果たす役割

土田 道徳は、教科書の中から答えを見つけるものではありません。例えば臓器移植やクローンについてなど、前例のない現代的な課題や、教科書には載っていない問題を判断する力をつけていくことが道徳に期待されています。天笠先生が

おっしゃった「多面的・多角的なもの見方」でもって、物事の本質や、自分はどうかあるのかを考えていくことを意識しながら、道徳の授業をしていかなければいけないと思います。

加藤 子どもたちは、教科書や授業で教わったことを覚えるだけの受け手ではなく、将来的に学んだことを生かす使い手になっていきます。単に知っているだけでなく、それを使いこなす力が大切です。その上で、使う方向性が重要になってきます。ここに道徳学習の役割があります。

例えば、サイバーテロリストへの対抗策は、同じハッキング能力をもっている人間が、テロリストの動きを予想して対応する、ということです。2つの集団があり、知識や能力は共通していても、向いている方向性が違う。自分がよしとする生き方はどちらなのか。知識や能力を育てる学習はもちろん大事です。ただ、おおもとのところで、自分は何をもってよしとするのかという道徳性をもっていないと、危ういことにつながりかねない。その意味で、道徳は大事なところを担う教科だと思います。

天笠 言葉としては大まかですが、今の時代は、「自ら考える」ことが求められています。自分で物事を考え、見極め、探っていく必要がある。道徳は役割として、そこを引き受けなくてはなりません。他の教科が、知識や能力を研ぎ澄ます役割があるとすれば、道徳はそれを人間全体のあり様に還元、統合していくという関係になってくるのかと思います。

加藤 「親切・思いやり」というのは、どのように考えたらいいのか。どのように考えると、自分の生き方や周りの生き方の質がどう高まるか。そんな一つ一つの考えが最終的には全部つながり、「みんながよりよく生きる」という究極のゴールにつながる。そういう見通しのもとに、道徳の授業は存在し、それに寄り添うように、各教科で資質・能力を研ぎ澄ます指導や、切磋琢磨する学習がある。道徳を学ぶことによって、その他の教科の学びがより生きてくるように、道徳の学習ができればと思います。

カリキュラム・マネジメントとしての道徳

天笠 道徳は、元祖カリキュラム・マネジメン

トです。道徳は各教科の要となるものですが、現状は要ではなく、one of themになっています。あるいは、他教科との関係が希薄になり、道徳だけが独立してしまっている。道徳の教科書は、道徳が教育課程の核だということを、再確認するための呼び水となるかもしれません。

加藤 道徳は他教科と並列にはならないとは、もちろん思います。道徳がベースにあって、様々な学習や教育活動が成り立つ。学習の全部を統合する、つないでいくという役割がある。週に一度の道徳の授業を、されど1時間と捉え、きちんとやることによって、他教科の学習や日常生活が深まり、光を増していきます。道徳は、見通しを指し示す灯台のようなものかもしれません。そのような理想をもち、学びを深めていくことが大事です。



天笠 色々な教科の様々な知見が盛り込まれて成り立つ道徳というのも、あるのかなと思います。それぞれの教科の学習をつなげる、あるいはそれをもとにして考えること自体が、道徳教育の趣旨につながるかもしれません。各教科で学んだことが、武器として生活に使えることを示すために、教科横断や連携というものを考える。そういう学習を誘うような内容を教科書に組み込むのはどうでしょうか。

加藤 文科省から「自我関与」、「問題解決」、「体験的な学習」という3つの例示がなされました。あくまでも例示だと文科省は言いますが、おそらくこの3つのアプローチのどれかで各社の指導書・指導案ができあがってくるでしょうし、そういう実践が増えてくると思います。本当に子どもたちが深く考え、議論していく道徳授業をつくるには、よりよい生き方を模索するために大事なことは何なのかと考え、他の視点を示すことも大事です。

今あげられた、他教科での学び・知見から考える以外にも、批判的に考えたり、自分はどこが好きで、それはなぜなのかということを考えたりするなど、様々な見方・考え方を示すことは大事です。人には言葉以外にも、図形や数字、音楽や運動など、色々な能力・特性があり、一人ずつ解釈・考え方の得意分野が違います。子どもたちにそういうアプローチで、同じものでも違う見方・考え方があることを理解させると、思考が広がってくる。それをクラスの中で共有して、「そういう考えもあるんだ！」と発展するのを演出し、組織するというのが、多面的・多角的な学びをするための1つの方法かと思いました。

土田 道徳の問題解決的な学習においても、学んできたものを動員しながら解決する姿勢が大事ですよ。

例えば板書というと、「道徳は右から縦に書かねばならない」というような呪縛が現場にあるかもしれません。しかし、子どもたちは図や絵など様々な方法で物事を考えていますし、加藤先生は板書や道徳のノートを、かなり柔軟に活用して授業されています。

加藤 土田先生がおっしゃるような呪縛を外す

ような、板書には無限の可能性があるので、もっと広く考えられる、という投げかけが、教科書や指導書でできたらいいかなと思います。

土田 今回の道徳の教科書では、指導書の中に別案が組み込まれていて、同じ教材の複数の活用法を提示しています。「ねばならない」が多すぎると、思考の枠が狭まります。ねらいや、目指すもののためにどのようなアプローチをしたらいいのかという発想をたくさん示せるとよいですね。

加藤 現代は「ねばならない」が多すぎます。道徳の教科書で、なおさらそれが強まってしまうのは避けたいです。

指導書もつくって終わりではなく、振り返ってどういう意味があったのか、では来年はこうしようというように必要に応じて変えていき、PDCAサイクルのように運用していくべきです。つくって満足してしまえばいけません。

天笠 道徳に限りませんが、教科書や指導書は、授業を振り返り、その改善を促すような内容をもっと取り上げていただくといいかと思います。教科書自身もそのように、よりよいものになっていくといいですね。

本鼎談は平成29年1月13日に行われました。



「特別の教科 道徳」の教科書の役割や期待について、お話をいただきました。

こくのある芳醇な 道徳授業



理と情の調和した授業を目指して

淑徳大学名誉教授 新宮 弘識

「ほく、このクラスにいてよかった」

ある公立小学校の4年生の道徳の授業を参観して、感動したことがあります。それは、授業の終わりに「ほく、このクラスにいてよかった」とつぶやいた男の子がいたことです。授業後の研究会でこの男の子のことが話題になり、自分があるクラスが友情に満ちた学級であることが道徳の授業で納得できたからではないかということになりました。学級担任教師によれば、2年生の頃は、手をつけられない子で、その子の影響で、学級崩壊の心配さえあったという話でした。私は、拙著『道徳教育に役立つ名句・名言』（洛慈社刊）で紹介した「人間一人を粗末にすると教育はその光を失う」という名言を思い出しながら、この子の道徳的成長を喜びました。

この男の子をして、「ほく、このクラスにいてよかった」と言わしめたものは何でしょうか。学級担任教師の学級づくりに関する2年間の努力がその土壌でしょうが、直接的なきっかけになったものは、参観した道徳の授業だったと考えます。

子どもの道徳的成長を促す道徳授業とは

ここで展開された授業を、私は「こくのある芳醇な道徳授業」であると思いました。それは、内容が濃くて香りの高い授業であり、理を究め情に居る授業だったからです。

この授業で使われた教材は、「ないた赤おに」でしたが、授業では、「赤おには何故泣いたか」についての子どもの反応を受けて「赤おにが泣いた原因になった青おにの友情は、どのような友情であるか」について、話し合われていました。具体的には、青おにの行為を明らかにしたあと、青おにの行為を生んだ心について考えさせ、「友達

に会いたいと思う心」「友達の悩みを自分のことのように考える心」「友達のために自分にできることを実行しようとする心」などを明らかにしていく展開でした。しかも、子どもたちの話し合いは、自分の経験を語りながら青おにの心を語るという学習であったために、青おにの心を他人事ではなく、自分と重ねて考え、「確かにそうだ」「よく分かったよ」「私たちも同じだね」というふうに、情が深まっていったと思われました。

正にこの授業は、人間のよさとしての思いやりの心を多面的・多角的に考えるという理の学習を行いながら、情を深めるという「こくのある芳醇な授業」であるといえるのです。

道徳の教科書づくりに込めた思い

道徳の教科化に向かって学習指導要領が改訂され、「考える道徳・議論する道徳」「ものことを多面的・多角的に考える道徳」が目ざされており、問題解決的な学習やモラルジレンマ等の教育方法がもてはやされ始めています。

従来の気持ち中心の心情道徳の反動として、考える理の教育が重視されるようになったことは、理解できます。情は周りの状況が変わればすぐに変わるという危うさがあるので、人間のよさを多面的・多角的に考える学習は重要です。しかし、人間は理では動きません。情で動くこともまた事実です。理の教育に偏れば、議論に長けただけの子どもになりかねないのではないのでしょうか。考える学習が胸に落ちる所まで深まる理と情とが調和した授業こそが、「こくのある芳醇な道徳授業」であり、私は、このような道徳授業づくりを期して、道徳の教科書づくりの顧問を引き受け、編集作業に臨んでまいりました。

深く考える道徳授業で 自分の生き方を考える



魅力的な教材を子どもたちに

千葉大学教育学部附属教員養成開発センター教授 土田 雄一

高学年における道徳授業の重要性

小学校高学年における道徳授業では、将来どのような場面に出会っても、これまでの学びをもとに物事を多面的・多角的に考え、よりよい判断をし、行動する力を育てたいと考えています。急速に社会が変化し、これまでの常識・ルール・価値観で対応ができなくなったときに、「自分でよく考え、判断し、行動を決める力」が必要になります。その基となる心や力を育てるのが高学年であり、人生の土台づくりをする時期なのです。

その時期に子どもたちが学ぶ道徳の教科書の教材は、ある時は自分の人生モデル（理想とする生き方）を示してくれるでしょうし、またある時は、人としての判断力を育て、自律的な生き方を考えさせてくれるものでしょう。そして、それらの学びと体験を通して自分の生き方を自分で獲得していきます。小学生ではまだまだ生き方や目標は定まっていますが、それを1つずつ確かなものにしていくプロセスが、道徳の時間なのです。夢や生き方はそれぞれですが、教材に対しての自分の見方をもとに、さらにみんなで話し合ったり、教師と共に深く考えたりしながら、自分の生き方を考えることこそ、高学年の子どもたちにとって必要かつ大切な時間ではないのでしょうか。

魅力的な教材を子どもたちに

道徳の時間は教材をもとに友達や教師と共に自分を磨く時間です。教科になることでよりしっかりと磨いてほしいと思いますし、そのための魅力的な教材を高学年では開発し、精選しています。

魅力的な教材としていわゆる「定番教材」の他、新教材の開発にも力を注いできました。「技術で『障がい』をなくしたいー 遠藤謙 一」（6年）は、ロボット技術を応用した義足開発の分野では世界

的な技術者である遠藤謙さんの取り組みを取り上げた教材です。遠藤さんが義足の開発を続ける理由がとても興味深いので、ぜひご覧いただきたいです。また、「マララ・ユスフザイー 一人の少女が世界を変える 一」（5年）や「六千人の命を救った決断ー 杉原千畝 一」（6年）など、自分の生き方を深く考えることにつながる教材も加えました。さらに、現代的な教育課題でもある情報モラルとも関連させた「約束」（5年）や「本当にだいじょうぶ？」（6年）は、現在の子どもたちにしっかりと向き合ってもらいたい教材です。他にもユニークな教材として、「一年生のお世話係ーアフター・ユー 一」（6年）があります。この教材は1年生の教材「すてきなことば『あふたあゆう』」と同じ活動場面が取り上げられていて、これまでにない教材となっています。1年生のお世話係をする6年生との関わりが、6年生の視点と1年生の視点から別の内容項目で描かれていることが魅力の1つです。

そして高学年では、これらの教材を通して子どもたち一人一人が学んだことを自覚することや自己評価できるようになることが重要です。自分の生き方を考える道徳の時間であるからこそ、毎時間の自分を振り返ることができる「学びの足あと」（自己評価シート）は、高学年にとっては大きな意味をもちます。

最後に忘れてはならないのは、これらの教材を通して道徳性を育てることを常に念頭に置くことです。何のための道徳授業なのか。何をねらいとした授業なのか。そしてそれらはどんな子どもたちを育てることにつながるのか。ぜひ高学年の教材を活用しながら考え、育ててほしいと願っています。魅力的な教材を活用し、より深く考える道徳授業が実践されれば、よりよい生き方ができる土台が築かれることでしょう。

心に残る道徳授業

加藤宣行先生による 授業実践の紹介①

教材内容紹介

2年 めいじん おりがみ名人

- ★主題名
がんばる力
- ★内容項目
希望と勇気、努力と強い意志



いよいよ「二わの つる」のじゆぎょうがはじまりました。わたしは、むねをときどきさせておはなしをききました。先生は、おはなしの おわりの ほうで、「……くうくと、ないで、それから、どおい シベリアを

そこで、こんどは 先生から いただいた 二まいの 大きな いろがみて おりました。

「おいかたを、れんしゅうしました。一かい目よりは、二かい目、二かい目よりは、三かい目、だんだん、うまく、いくようになりしました。ふつうの つるとちがって、むずかしい おりかたでしたが、やつと、じょうずにおれるようになりしました。」

「わたし」は、どんな がんばり（どりょく）をしたのかな。

30 おりがみ名人

わたしは、おりがみが、すきて、どもたちからも、「おりがみ名人」といわれて、います。三がっきの、ある、日の、こと、先生は、「らしいゅうの、「二わの つる」というべんぎょうに、おりがみて、つくった つるを、二わ、つかいたのですが、だれか、おれる、人は、いませんか。」と、おっしゃいました。わたしは、どう、しようかなと、おもいましたが、おもいきって、手を、あげました。

がんばる力
じぶんが、立てた、ちくじょうを、やりとりに、は、どんな、ことが、たいせつしょうかな。

どうして「わたし」は、手を、あげたのかな。



その、日、わたしは、いえで、大きないろがみをつかって、つるを、おりました。いっしょうけんめい、おりました。できあがった、つるを、もって、空を、とぶように、へやの、中を、あるいて、みました。その、とき、わたしは、「ほんとうに、つるが、とぶように、つくれないかなあ」と、おもいました。

そこで、おかあさんと、いっしょに、本やさんに、いって、おりがみの、本を、かって、もらいました。その、本には、はねが、うごく、つるの、おりかたが、出て、いました。わたしは、いえに、かえって、しんぶんしを、いろがみと、おなじ、大きさに、きりました。本を、見ながら、しんぶんして、なんども

大きな つるが、おれたから、もう、いいじや、ないかな。

ちくじょうに、むかって、がんばる力を、たいせつしょう。

あなたが、はたらいた、ちくじょうを、思い出して、いっしょに、がんばる力を、たいせつしょう。

さして、とんで、いきました。」と、いいながら、つるのはねを、うごかしました。みんなは、おもわず、「あっ」と、さげました。まるで、ほんものの、つるが、とんで、いるようでした。みんなは、いっせいに、手を、たたきました。わたしも、おもわず、かっぱい、手を、たたいて、いました。

おもわず、かっぱい、手を、たたいた、とき、「わたし」は、どんな、きもちだったのかな。

実践の報告は
12ページ
からです。

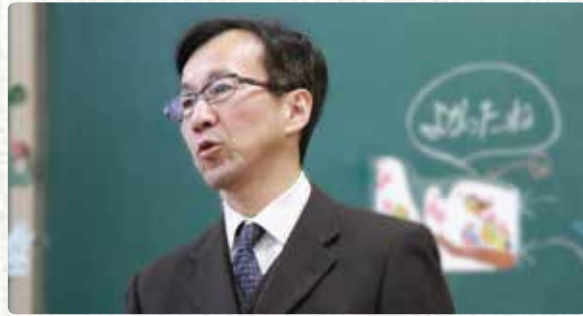


授業実践の紹介①

低学年の道徳授業 「おりがみ名人」

筑波大学附属小学校 加藤 宣行

※平成26年5月発行No.107より再録のため、
内容項目名は当時のままになっています。



1. 資料について

本資料は、『ゆたかな心』2年生版に収録されている、主に「勤勉・努力」という内容項目を学習するために書かれた資料である。

2. 本時のポイント

本時の授業展開は、次の5つの観点を意識して行った。というより、実は本時の授業を行ったあと、先生方に本時の授業を分析していただいた結果、このような「型」に行きついたというのが本当のところである。

- ①ぜひとも考えたいと思う問いをもつ
- ②問いに関して、自分なりの予想を立てる
- ③みんなが立てた予想を分類する
- ④予想を、資料を読んで確かめる
子どもの反応を適切な言葉を使って意味づけする
Ⅰ みんなが立てた予想を具体的に確認し合う
Ⅱ 予想以外の新しい考え方を見つける
Ⅲ 教師の考えも、必要に応じて子どもに問いかける
- ⑤新しい考え方を自分の目標に照らし合わせて確認し合う

3. 授業の実際

(『』は教師「」は子ども)
①ぜひとも考えたいと思う問いをもつ
『今、一生懸命がんばっていることはなんですか』
「なわとび」「ピアノ」
『もっと上手になりたいと思いませんか』
「思う」
『今日の勉強をすれば、きっと上手に、名人になることができると思います。名人になるためのひみつをゲットしましょう』
②問いに関して、自分なりの予想を立てる
『何かの名人になるために必要なことってなんでしょ』

「いっぱい練習すること」
「コツコツと努力する」
「好きになる」
「あきらめない」
「名人を目指してがんばる」
③みんなが立てた予想を分類する
『「いっぱい練習」と「コツコツ努力」は同じ仲間ですね。これをAとしましょう』
『「好きになる」はまたちょっと違うね。Bとしましょう』
『「あきらめない」、これも大切ですね。Cとしましょう』
『「名人を目指して」なるほどこれもいいですね。Dとしましょう』
『他にはないかな。今日の勉強をすれば、Eを見つけられるかもしれないよ。ではお話を読みます』
④予想を、資料を読んで確かめる
『みんなが考えたA～Dは、この話の中にあっただかな』
「あった、Aはたくさんあった」
「Cは最初からあったんじゃないかな」
『なるほど、この子は最初からおりがみが上手で、好きだったというわけだ。ということは、普通に折ってもOKだった。(ここで普通に折った鶴の折り紙を提示し、黒板に貼る) だけど、飛ぶようにできないかなと、上を目指して折った。これがDですね。(ここで、飛ぶ鶴の折り紙を提示し、実際に動かしてみせる)』
「すごい！」(いっせいに子どもたちから歓声が上がります)
☆板書の工夫
ここで、右上の写真のように普通に折った鶴と工夫をして折った飛ぶ鶴を対比的に提示し、その違いが視覚的に一目瞭然となるようにする。
このことにより、子どもたちは名人の上があることに気づき、より高みを目指して努力すること

の意味を考え始めるようになる。
⑤新しい考え方を自分の目標に照らし合わせて確認し合う
『すごいね！このすごいに行くためには、みんなが見つけたABCDの4つプラス、Eのがんばりがありそうだよ』
「ただ折るのではなく、ていねいに折る」
「でもさ、失敗したり、これでいいのかなあって悩みながら進んでいるから、真っ直ぐな線ではないんじゃないかな」
『なるほど。じゃあ、階段にしようか。階段を上っていくけれど、たまに足踏みすることもあるよね。それは無駄な時間なのかな』
「そういう時間も必要だと思う」
☆子どもの発言の真意をくみ取る
このようなやりとりは、ちょっと油断すると聞き流してしまうような、通りのよい発言であるが、よく考えると大変深い。努力というのは、やみくもに突っ走ることではなく、目的意識をもち、一つ一つの意味をよく考え、振り返りつつ、着実に進むということである。そのような過程で起こる失敗は、次につながるよい失敗となるであろう。
『なるほどなあ、そうすると、「これでいいのかなあ」って悩むことは悪いことではないのですね』
「うん、いいことだね」
さて、ここまで授業を追ってきて、⑥があることに気づいた。
それが次のようなものである。
⑥自分たちが学んだことを実生活にあてはめて考え、これからの生活に希望をもつ(よりよい価値観への変容を実感する)
『そのようなEのがんばりがありそうですね』
「目標をもって、みんなのために一生懸命、考えながら気持ちを込める」

『そのような、【いい努力】をすると、どんないいことが待っているでしょう』
「自分の力でやったという達成感がある」
「すごい人になれる」
「レベルアップできる」
「名人から達人へ！」

4. 授業後の考察

「がんばればできるようになる」などというように、誰でも分かっているつもりのことを改めて考え直す。少々大げさに言えば、がんばることの意味を、自分たちで予想を立て、それを検証していくようにするのである。そうすることによって、子どもたちは「ああ、そういうことか」と、自分の中で納得しながら、主体的に価値を自覚し獲得するようになる。

このように、道徳の時間は、授業の中で外からの押しつけではなく、内面からみなぎってくるような高揚感を味わわせることができたらいいと思う。子どもたちは自らよりよい方向を見出していく主体となるであろう。

実際、本時でもそのような動きがたくさん見られた。語呂合わせの洒落のようだが、『Eの努力(いい努力)』をしたら、どんないいことが起きるだろう」というような、自分たちが見つけた努力の秘密を明らかにし、それをういて努力を続けると、どんなに明るい未来が待っているかを、希望をもって語っている。

「すごい人になれる」「名人から達人へ！」などという言葉に実感がこもり、重みが増す。借り物の言われた言葉ではなく、子どもたち自らが選択し、納得した言葉になるのである。ここにおいて、子どもたちの言葉は力をもち、美辞麗句ではなくなるのである。

心に残る道徳授業

加藤宣行先生による 授業実践の紹介②

4年 雨のバスでいりゅう所で

教材内容紹介

- ★主題名 社会のきまり
- ★内容項目 規則の尊重



バスに乗る人たちの列が動き始めました。よし子さんは首を横に出して、ならんでいる人の数を数えました。よし子さんは前から六番目でした。一人一人がさすばめでバスに乗るので、いつもどろろと時間がかかります。(前の人たちは、どうして早く乗ってくれないのだろう……)よし子さんは、少しじりじりした気持ちで前へ進みました。

102



今日は、よし子さんがお母さんといっしょに、おばさんの家に出かける予定です。ところが、朝から雨がふっていて、家を出るときには、雨はいっそう強くなりました。まげに風もふいてきました。雨のバスでいりゅう所では、バスを待つ人たちが、雨やどりをしながら、バスが来る方をときどき見えています。



建くの方に、小さくバスが見えました。よし子さんは、雨の中へタッタッとかけたすと、ていりゅう所へいっしょに先頭にならびました。バスが来たことを知った人たちは、そろそろとていりゅう所に向かって歩き始めました。

よし子さんがしたことは、ルールいんなのひな。



社会のきまり
わたしたちのまわりには、さまざまなルールがあります。ルールはみんなのためにあるのではありませんか。

100



バスに乗りました。でも、もうでせきは空いていませんでした。「ほら、ごらんをさい、どきうつもりて、よし子さんは横に立っているお母さんの顔を見上げました。そんなよし子さんに知らぬふりをして、お母さんは、だまっただまっただの顔をじつと見つめています。いつもなら、やさしく話しかけてくれるお母さんです。でも、今日のお母さんは、いつもとはぜんぜんちがうのです。そんなお母さんの顔を見ていたよし子さんは、自分がしたことを考え始めました。バスのまじは、大っきの雨がしきりにふきつけていました。

よし子さんは、お母さんの顔を直視しながら、どんなことを考えていたのかな。



なぜお母さんが、だまっただまっただい顔ののだろう。

103



そのときです。後ろの方で、お母さんの声が聞こえてきたように思いました。でも、よし子さんはへつに気にもしてませんでした。バスが止まりました。よし子さんがさすばめでようとしたとき、かたが強い力で後ろの方に、ぐいと引かれました。びつくりしてふりまると、お母さんの手でした。よし子さんは、はっとしました。それでもお母さんは何も言わないで、よし子さんを抱きかかっていた所までつれていきました。いつもどきうつもりて、でもこわそうを顔でして。

他の人たちはよし子さんの行動を見て、どんなことを思ったのでしょうか。



101

実践の報告は
16ページ
からです。



授業実践の紹介②

中学年の道徳授業

「雨のバスでいりゅう所で」

筑波大学附属小学校 加藤 宣行

※平成27年5月発行No.110より再録のため、
内容項目名は当時のままになっています。



1. 資料について

本資料は、『ゆたかな心』4年生版に収録されている、主に「規則尊重、公德心」という内容項目を学習するために書かれた読み物資料である。『私たちの道徳』にも掲載されており、道徳の資料の中では定番と言われるものの1つである。

雨の日にバスの停留所に並んでいたよし子と母親のエピソードである。みんな雨を避けて軒先に並んでいたが、バスが近づくのに気づいたよし子はその列を抜け出し、先にバスに乗ろうとする。すると母親にぐいと肩をつかんで引き戻され、結局バスに乗った時には座席は空いておらず、不満そうに「ほらごらんさい」という態度のよし子と、何だかいつものやさしい母親とは違うよそよそしい態度の母親の姿。その対比から、自分のしたことを考え始めるよし子の姿を描くところで終わっている。

2. 一般的な展開

定番資料だけに、数多くの実践記録を見ることが出来る。その中でも多い傾向が次のようなものである。

<導入>

- ・身の回りにある規則はどんなものですか。
- ・順番を待つ時の気持ちはどんなですか。

<展開>

- ・順番を待っている時のよし子の気持ち。
- ・ぐいと引き戻された時のよし子の気持ち。
- ・お母さんの横顔を見ている時のよし子の気持ち。

<終末>

- ・これまでみなさんはきまりを守ってきたか。
- ・教師の説話。

また、大きく3つの場面に分けて考えることが一般的である。すなわち、

- ①雨の中を待っているよし子

②ぐいと引き戻されたよし子

③自分のしたことを考え始めるよし子

この3つである。発問は、当然の流れで、この3つの場面のよし子の気持ちを聞くことになる。そして、何といても最後のクライマックス場面③でのよし子の気持ちを聞くことが、一番のポイントとなるであろう。

予想される子どもたちの反応は、

ア. 「自分一人くらい」という考え方はいけないんだな。

イ. きまりを守らないとみんなが迷惑する。

ウ. お母さんは恥ずかしかっただろうな。

等々ではないだろうか。

このような子どもの発言を引き出すために、導入や場面①・②での発問が用意されていると言える。しかし、ア・イ・ウの、どの反応も授業の中で気づいたということではないであろう。言ってしまうと最初から分かっていることである。分かっているけれどなかなか自覚できない、守れないことを「ああ、そうだ、やっぱりきちんとしなければいけないな」と、人生のどこかで思い直すことも必要であろう。だが、そう思わせることだけが目的ならば、何も45分の道徳の授業を使う必要はないのではあるまいか。

ホームルームの10分間でもいいし、何か「トラブル」があったその場をとらえて適宜指導を加える方が、より実感を伴う指導となり、効果的かもしれない。

「道徳の授業は、カリキュラムで45分確保するというよりも、日常生活で行った方がよい」という主張はその辺りから出ているのではなかろうか。

3. 授業の実際

この資料を使った授業を私が行う時には、展開を変える。展開というよりは発問を変えたと考えた方が適切かもしれない。

先生が最後に言った言葉は「きまりを守るレベル」でした。考えてみると、最初の子はレベル1だけど、最後はレベル100だと思います。ぼくも、『俺様ルール』は作らずに、『人様ルール』を作りたいです。1年間、とても面白い道徳でした。本当にありがとうございます。道徳がなかったら、ぼくは『俺様ルール』をたくさん作っていたような気がします。

これは、今年度最後に授業をした時の、一人の男子の授業後の感想文である。その最後の授業が、この「雨のバスでいりゅう所で」だった。この『俺様』という言い方は表現的にはあまり好ましいものではないが、子どもたちの心境をうまく反映していると思わざるを得ない。自己中心的で他者の迷惑を顧みず、一般的な社会のルールとは一線を画すところにいる人物像と、そうではない人物像を自分の言葉で使い分け、後者のよさを意味づけている。そして、自分にとっての道徳の授業の意味を総括している。一年の最後にふさわしい授業であった。

【具体的な展開】

では、どのような授業展開になったのかを紹介しよう。(○は教師の発問 ・は児童の発言)

○よし子さんはどんな人だと思いますか。

- ・自己中心的、自分勝手。
- ・最初はそうだけど、最後は反省しているよ。
- ・お母さんを座らせてあげようとしているところはやさしいよ。

○よし子さんは変わりましたか。

・最後は変わったんじゃないかな。

・そうだね、考え始めているね。

○よし子さんは最初と最後で何が変わったの。

・はじめは自己中心的だったけど、最後は周りのことを考えられるようになった。

・そう、心が広がった。

○なるほど、よし子さんの見方が変わった。

・広がったのかな。

・うん、最初の子は「私」しか見ていない。

・そうそう、「私様」。

○なるほど、「私様」か、面白いねえ。

○最初の子は「私様」か、じゃあ、最後の子は何かな。

・人…「人様」。

※「私様」と「人様」と板書。

○なるほどねえ、自分のことしか見えていなかった、考えていなかったよし子さんが、人のことに目を向け始められたのですね。

・そう、「雨の日は割り込まずにきちんと並んで乗車しましょう」というきまりに気づいた。

○そういうきまりはどこかに書いてあるかな。

・書いていない。

○じゃあ、きまりではないのではないですか。

・きまりじゃないけど、守らなくてはいけないことがある。

○そうか、この「雨の日は……」というのをきまりにしなくてはいけない人と、きまりをしなくてもいい人がいるのですね。

○では、「きまりをしなくても守れる人」ってどういう人だろうね。

・心の中にきまりがある人。

・よし子は最初は外にきまりがあって、守らせる人も外にいた。けれど、最後は自分の中にきまりがあるようになった。

○そういう人だったら、どんな社会をつくることできるだろうね。

・自分のことも人のことも自分の広い心で考えられるから、きまりが必要なくなってくる。

・逆に、きまりがなくても、必要なことは自分の判断で行ったり、ストップをかけたりできるようになる。

○みなさんよく考え、気づきましたね。気づくことのできたみなさんも、きまりがなくても自分で考え、行動できる人になれそうだね。そういう人って、きまりを守るレベルが高いですね。

4. おわりに

従来の登場人物の気持ちを聞く発問から、よし子の変容を問う発問に切りかえたところ、授業や子どもたちの反応は面白いほど極端に変わることがお分かりいただけたであろうか。子どもたちは自然に自分の生き方と重ねて語り始めるのである。極端なまでの素直な反応、発想力。そこが子どものすごさである。